

平成27年度村政懇談会 地区自治会質問内容

中丸地区自治会

<p>質問事項 (題 目)</p>	<p>中丸小学校西側通学道路及び生活道路の拡張舗装の要望</p>
<p>質問要旨 (内 容)</p>	<p>・村道2348号線及び2301号線の須和間区、南台区やF・須和間区から中丸小学校に通学する通学路兼住民の生活道路として通称峰山から東海高校正面中央部分に抜けるのぼりと下り坂が急でS字にまがっており、突き当りT字路を曲がると大小のクランクが3箇所もあり、全てが狭い道路になっており、登下校時には自動車の交通量も多く、児童生徒の登校時に支障をきたしていると共に大変危険で有ります。また、生活道路としても大変危険な道路で有ります。また、住宅付近の樹木の枝払いが行き届かず、道路標識の確認が困難になっております。</p> <p>また、これからも須和間区、南台区、F・須和間区の児童生徒が増えて、この通学路の通学頻度は更に増すこととなります。</p> <p>このままの曲がりやクランクや狭い車道と歩道では大きな交通事故を引き起こしかねません。現に、今の都市の通学路では自動車事故が多発し多くの子どもの被害が出ています。①東海村でも一番ひどい条件の道路をこのまま放置しておくことは出来ません。是非改善をお願いします。②どうしても用地などの問題などの条件で出来ない場合は、朝晩の登下校の時間帯だけは自動車通行止めにするとか、③現在の小学校南側グラウンドに面した通学路の補修拡張並びに新たな通学路を設け住宅に入る前から右折して南側から登下校できるようにするよう、要望いたします。</p>
<p>回答</p>	<p>(都市整備課・学校教育課)</p> <p>① 歩車道境界ブロックの設置してあるクランク箇所は歩行者を保護するために作った歩道でございます。車輛速度の減速にも寄与するものでして、拡幅することにより車輛の速度がアップすることを望むものではありません。また、歩行者の安全を守るために地区住民の了解や警察署と規制等を協議いたしまして、対応を検討してまいります。</p> <p>② 通学時間帯の規制について、こういった規制がかけられるかを含めて警察や規制のかかる地区の方々の意見も聞きながら検討してまいります。</p> <p>③ 通学路の件でございますが、震災以降、中丸小学校のグラウンド南側に設置してあります階段につきましては、安全性を考慮しまして通学路として使用していない状況でございます。また、階段下の村道につきましては3メートル前後と狭いうえ、ガードレールはあるものの排水路には蓋がないため事故を未然に防止する考えから、さらには地形</p>

回答	<p>的にも人目が届かない場所であることから防犯の観点からも、安全性が十分確保されていない以上は、通学路としましては好ましくないものと考えております。</p>
----	---

<p>質問事項 (題 目)</p>	<p>村内路線バスのルート及び増便の要望</p>
<p>質問要旨 (内 容)</p>	<p>・東海村の路線バス増便の検討をお願い致します。</p> <p>周辺地区の住民は、高齢化に伴い自家用車の運転が難しい世代へと移っております。現状では生活に支障をきたすため、公共交通機関網が発達している都市部への流出や住み替えの停滞が懸念されます。現在、緑ヶ丘区－南台区－フローresta須和間南を経由する便は平日4便/日、土日祝日は3便/日であり、日常的に利用できる状況にありません。巡回型ルートを取るなど、日常生活に即した運行ができるよう要望します。</p> <p>【循環希望ルート】 フローresta須和間→南台→緑ヶ丘→中丸コミセン→東海病院→東海駅東口→東海村役場→東海西口→東海文化センター（図書館）→フローresta須和間</p>
<p>回答</p>	<p>(まちづくり推進課)</p> <p>既に御案内のとおり、村が主体的に運行しているデマンドタクシーに加え、本年4月からは、民間交通事業者による路線バスの実証実験が4路線開始されております。当初は6ヶ月間の実証実験を予定しておりましたが、交通事業者の協力により、平成28年3月まで期間を延長した上で、10月以降の新たな実証実験ルートとして、東海駅東口からフローresta須和間、南台、緑ヶ丘を経由し東海村総合福祉センター、村立東海病院を結ぶ循環線を設定することが地域公共交通会議で承認されました。具体的な運行内容については、申請が整い次第、改めて広報とうかい等で御案内いたしますが、日常生活に即した路線となるよう、1日14本程度の運行を予定しております。</p> <p>今回の実証実験はあくまで民間事業者による運行であり、採算性が大きな課題となります。今後は利用実績等を基に平成28年4月以降の本格運行化を検討することとなりますので、路線を維持・確保するためには、沿線住民の方々をはじめ村民の皆様の御理解と御協力が不可欠となります。生活路線として多くの方々に御利用いただきますようお願いいたします。</p>

<p>質問事項 (題 目)</p>	<p>自治会役員の負担減少に向けての協力要望</p>
<p>質問要旨 (内 容)</p>	<p>・自治会役員の負担減少に向けての活動に協力をお願い致します。 中丸地区の自治会は、高齢化に伴い役員不足や後継者不足などの問題をかかえています。 全国でも同様の事例が多く、こうした事情を踏まえ活性化に向けた支援を取り組む自治体があります。 一方、フロースタ須和間区自治会は、会員の多くが働く世代そして子育て世代です。従って自治会役員の活動は土日に限られますが、自治会連合会、地区自治会、部会、村役場との調整など平日の会議や活動も多く、若い世代にとっても自治会役員となることは生活に支障がでるほどの大きな負担となっているのが実情です。そのため、自治会役員を率先して引き受けられる方が不足し、積極的に活動を行える体制にはありません。 これらを踏まえると、むやみに活性化することはこの問題を根本的に解決する手段ではないと考えます。 まずは単位自治会がこの問題を捉え、現状に即した事業計画を行い運営していく努力を行うべきですが、同時に、数ある申請手続きや会議体を整備・統合することをご検討頂けますよう要望します。</p>
<p>回答</p>	<p>(自治推進課) 今年度の村の重点施策として「持続可能なまちづくり」を掲げており、そのひとつに「地域自治活動の活性化に向けた新たな支援方策の検討」があります。 村内の自治会活動につきましては、自治会長や役員の皆様をはじめ、多くの自治会員の皆様にご尽力いただき感謝しております。 ご指摘いただきましたとおり、少子化・高齢化などにより地域における担い手が不足しており、地域の活動が難しくなっている中で、地区自治会及び単位自治会における負担を少しでも軽減したいと考えており、まちづくり協議会の創設や補助金の一括交付金化による新たな支援方策のあり方を検討しているところでございます。 引き続き自治会等皆様との協議により、より良い自治会や村民組織の協働について考えて参ります。</p>